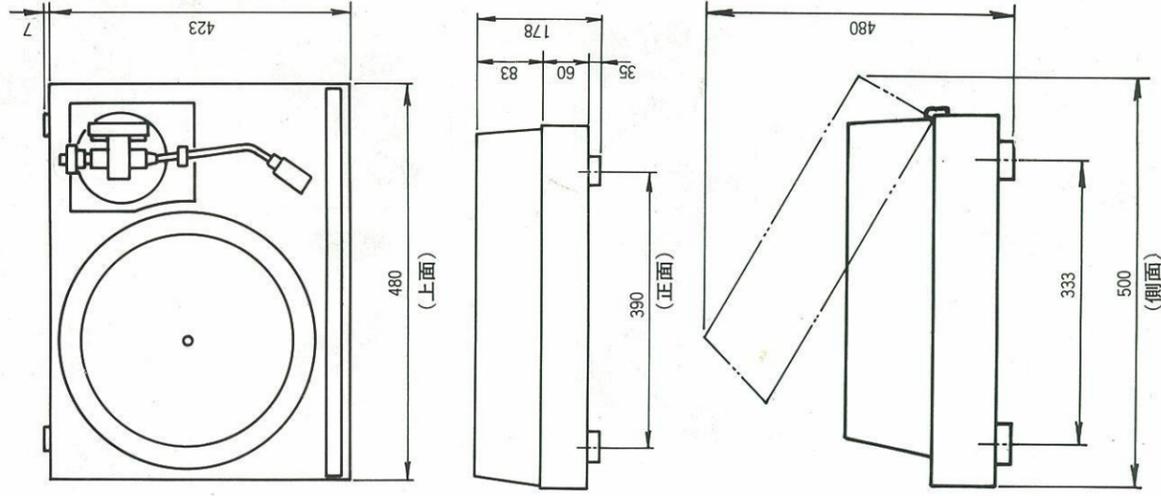


# 仕様

# 寸法図



- モーター部
  - 型式 クォーツロック コアレス DC型
  - FG サーボモーター
  - 駆動方式 ダイレクトドライブ
  - 回転数 33 $\frac{1}{3}$ 回転、45回転
  - 回転ムラ 0.02% (WRMS)
  - 0.01%
  - (WRMS/回転部 K&K 測定法)
  - S/N 78dB 以上 (DIN-B)
  - 速度検出方式 周波数検出方式 (FG-方式)
  - 起動トルク 1.2kg $\cdot$ cm
  - ドリフト 0.0001%/H
  - 電圧特性 0% ( $\pm$ 10V)
  - 温度特性 0.00005%/ $^{\circ}$ C
  - ターンテーブル 32cm
- トーンアーム部
  - 型式 エレクトロ ダイナミック サーボ方式  
ダイナミック バランス型 トーンアーム
  - 有効長 245mm
  - トラッキング エラー  $+1^{\circ}48'$ 、 $-1^{\circ}31'$
  - オーバーハング 15mm
  - 針圧可変範囲 0 $\sim$ 3g (0.25g ステップ直読式)
  - シエルフ重量範囲 14.5 $\sim$ 25g  
(ヘッドシエルフの重量 13g)
  - アーム高さ可変範囲 45mm $\sim$ 51mm (48mm にセット)
- 電源部・その他
  - 電源電圧 AC 100V (50Hz、60Hz 共用)
  - 消費電力 POWER
  - ON時：13W (演奏中 $\cdot$ 50Hz/60Hz)  
( $\oplus$ 電気用品取締法基準)
  - 19W (ターンテーブル停止時)
  - OFF時：2W (50Hz)
  - 1.8W (60Hz)
  - 重量 12.5kg  
(ダンボール ケースは含みません)

付属品 EP アダプター.....1

(注)・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。

## 日本ビクター株式会社

ステレオ事業部

所在地 〒242 神奈川県大和市下鶴間甲10号1644番地 (0462) 74-2121 (代表)  
お問合先 ビクターインフォメーションセンター (03) 580-2861  
〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号

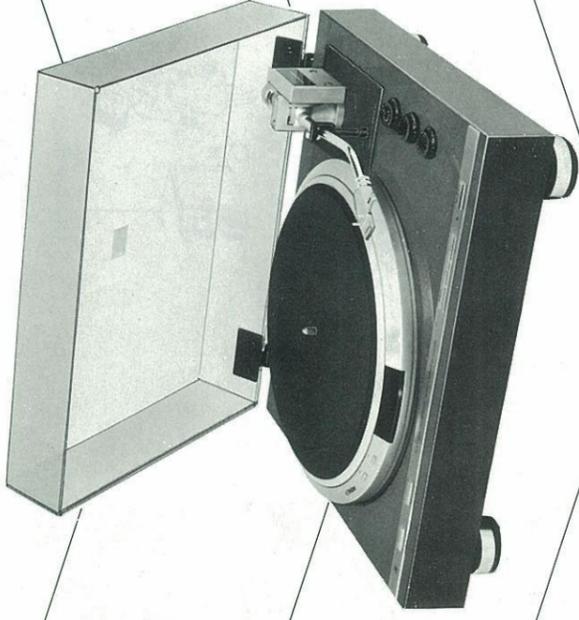
Victor  
105 MASTERS VOICE

# エレクトロ サーボ プレーヤー システム

# QL-Y7

ELECTRO-DYNAMIC SERVO TONE ARM

## 取扱説明書



— お買いあげありがとうございます —

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
お読みになったあとは、大切に保存してください。

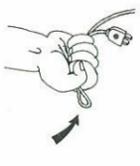
# ご注意

## ■ 安全上の注意

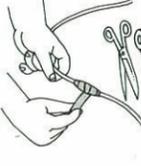
- 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。
- 電源周波数は、50 Hz 地域 または 60 Hz 地域でもそのまま使用できます。
- 電源コードを取り扱うときには、電源コードの取り扱いかたが悪いと、火災や感電の原因となることがありますので、次のような点に十分ご注意ください。



濡れた手でさわらない

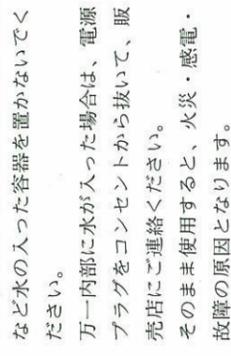
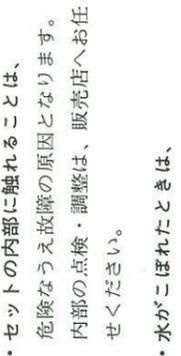


抜くときはプラグを持って



折り曲げたりしない

- 異常と感じたときは、煙がでていいる、変な匂がする……などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理にご依頼ください。
- セットの内部に触れることは、危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は、販売店へお任せください。
- 水がこぼれたときは、セットの上に花びん、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。
- 万一内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。
- そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



## ■ 取扱上の注意

- 変形、変色、熱、雑音、破損、故障などを防止するため、次のような場所はできるだけさけてください。



周囲温度が 0°C~40°C の範囲を越える所



湿気の多い所



不安定な所



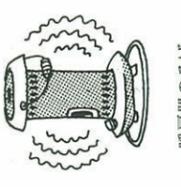
振動やホコリの多い所



寒い部屋から急に暖かい部屋への移動



直射日光の当たる所



暖房器のそば

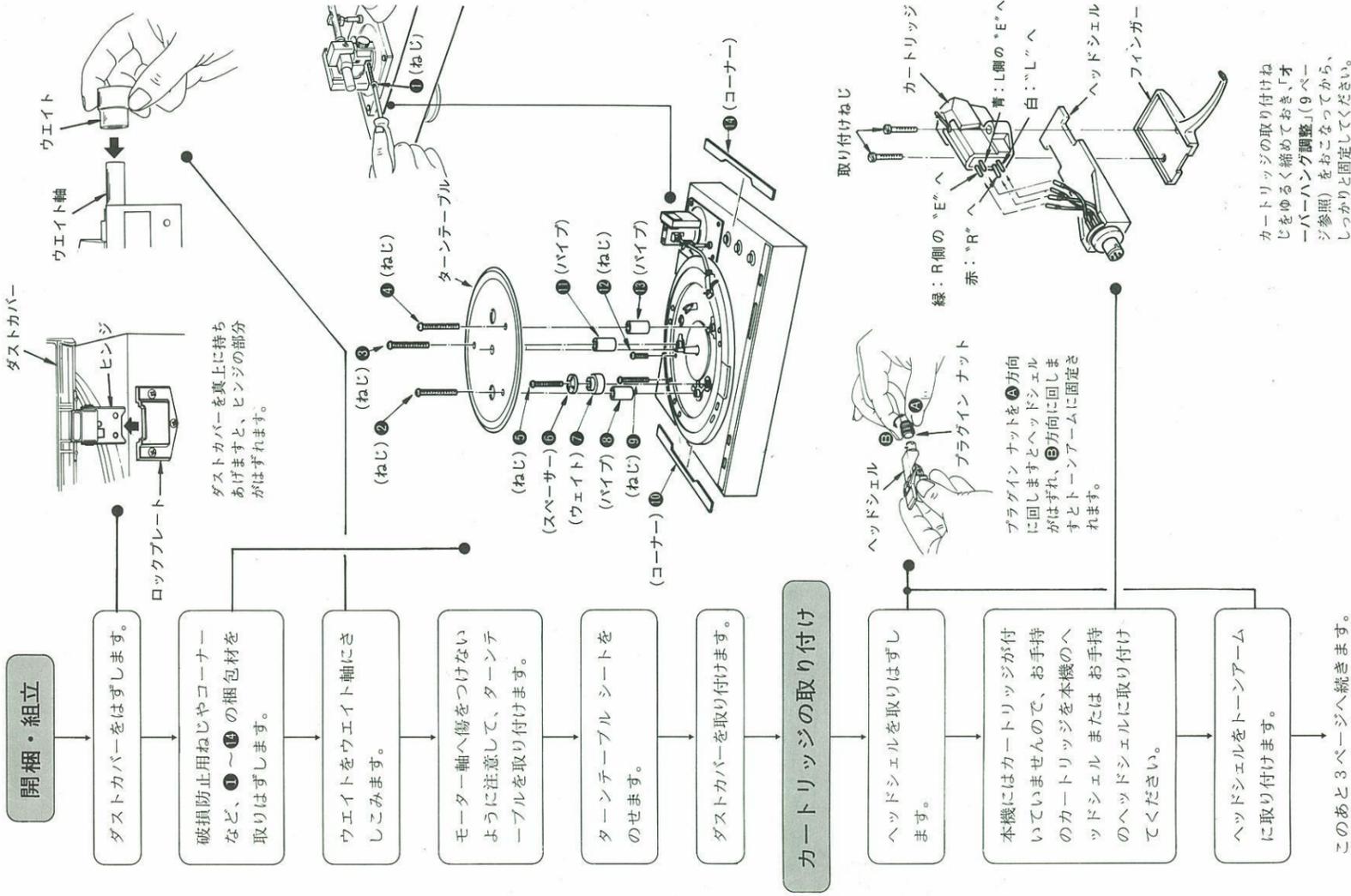


テレビのそば

- 外国での使用は？  
本機は日本国内用に作られていますので、電源電圧、電源周波数の異なる外国では、使用できません。
- キャビネットが汚れたら、中性洗剤などで汚れを落とし、乾いた布でふきとります。
- シンナーやベンジンのような使用は、ひび割れ、変色を招きます。

# 準備

— すべての接続が終わるまで、電源プラグはコンセントにさしこまないでください —



## 主要部分の名称および働き

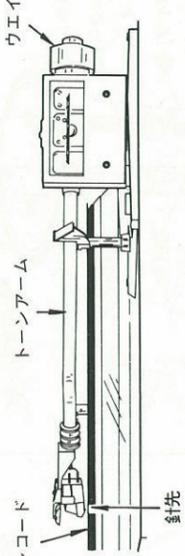
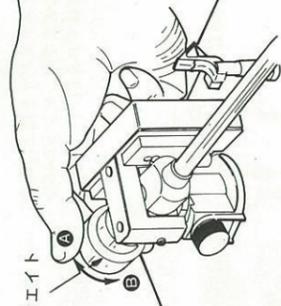
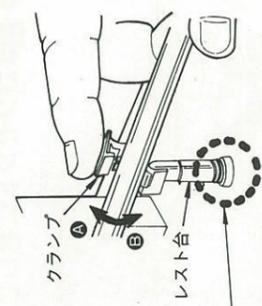
注意 (■ 安全上の注意 ■ 取扱上の注意) 準備

# 準備

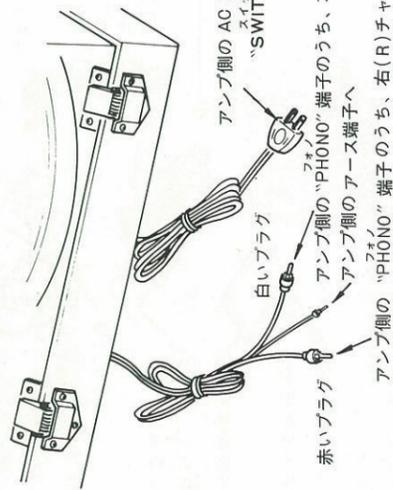
▲方向にしますとクランプがはずれ、●方向にしますとクランプで固定されます。

レスト台の下に1.5mm間隔で目盛が印されており、カートリッジとアームの高さ調整の関係をこの目盛で覚えておくと、とても便利です。

ウェイトを▲方向に回しますと針先がレコード面より浮きあがり、●方向に回しますとレコード面に近づきます。なお、特別重いヘッドシエールやカートリッジを使用した場合、ゼロパランスがとれないときは、サブウェイトとしてSW-Y7型(価格1,500円/54年10月現在)が別売りされており、ご利用ください。



丸針の場合には●印、楕円針やバタ針の場合であれば●印の目盛に、使用するカートリッジの針圧と同じ数字に合わせる。



アンプ側のACコンセントのうち、できるだけ「SWITCHED」側につないでください。

## アームの高さ調整

POWER スイッチを「OFF-ARM BALANCE」にします。(ボタンが上の方にもどされた状態になります)

クランプをはずします。

ターンテーブルにレコードをのせます。

ヘッドシエールのフックに指をかけてトーンアームをレコード面まで持つてゆかない状態でトーンアームが水平となる高さを調整します。

## ゼロパランス調整

針先をレコード面にのせます。

ウェイトの部分を回し、針先がレコード面に触れるか触れない位置でウェイトを止めます。

トーンアームをレスト台にもどしてクランプで固定します。

使用するカートリッジの針圧に合わせて、TRACKING FORCE ツマミを回しますと、電氣的に針圧が加わりま

針圧と同じ数値になるようにANTI-SKATING ツマミを回します。

## Qダンピング調整

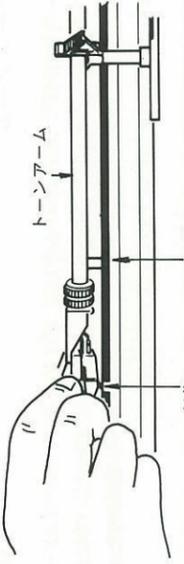
針圧と同じ数値になるよう、Q-DAMPING ツマミを回します。

## キャビネットの水平調整

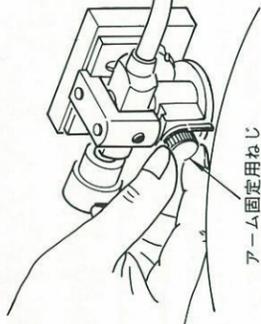
キャビネットが水平となるよう、脚の部分を回して調整します。

## アンプへの接続

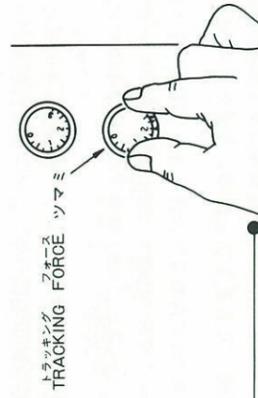
白いプラグの付いたコードをアンプ側の「PHONO」端子の右(R)チャンネルに、赤いプラグの方は左(L)チャンネルの「PHONO」端子に接続してください。なお、アースワイヤーはアンプ側のアース端子に接続してください。



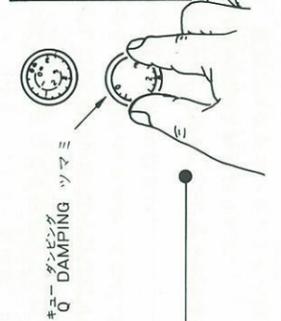
トーンアームが水平となるように、アーム固定用ねじでアームの高さを調整します。



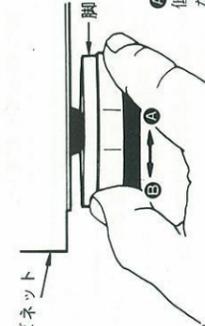
針先を傷つけないためにも、トーンアームの固定用ねじをゆるめたり、締めつけたりする場合には、アームをレスト台に固定してからおこなってください。



使用するカートリッジに合わせてこのつまみを切り替えます。(例)・針圧が2gのときには、このつまみを「2」に合わせます。



本機では、水平方向と垂直方向のトーンアームのQダンピングを一つのつまみで同時に調整できるようにしてあります。



▲方向に回しますとキャビネットが低くなり、●方向に回しますと高くなります。

(注)・輸送中に脚がはずれないように固く締め付けてありますので、脚の裏側からプラスドライバーでゆるめて調整してください。

## 主要部分の名称および働き

# 主要部分の名称および働き

## トーンアーム

このトーンアームは、エレクトロ ダイナミック サーボ トーンアームと呼ばれているもので、針圧、アンチスケウティング、Q ダンピングなどトーンアームの動作がすべて電気的におこなわれ、しかもそれぞれが無接触のために機械的損失が全くなく、性能が大幅に向上しております。

## 速度切り替え スイッチ

レコードに合わせて、ターンテーブルの速度をこのスイッチで切り替えます。45回転レコードの場合には「45」のボタンを、また 33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードの場合には「33」のボタンを押してください。

スピード インジケータースイッチが点灯して、ターンテーブルの回転数を表示します。

## POWER スイッチ

ON：このボタンを押すと、スピード インジケータースイッチが点灯してセットに電気がはいることを表示するのと同時に、トーンアームに針圧が加えられます。

OFF-ARM BALANCE：電気を切る場合には、このボタンを更にもう一度押してください。

ポタが上の方にもどされ (■)、スピード インジケータースイッチ および QUARTZ LOCK インジケータースイッチが点灯して、針圧も「0」(ゼロ)となります。

(注)・レコード演奏中に POWER スイッチを「OFF」にしますと、針圧がゼロとなり、レコードが自由運動をするようになるため、レコード演奏はできなくなり、レコードに傷をつけてしまうことがあります。

従って POWER スイッチを「OFF」にするときには、かならずトーンアームがレスト台にクランプされていることを確認してください。

・ターンテーブルを取りはずしたりあるいは取り付けたりする場合には、かならず POWER スイッチを「OFF」にするか または 電源プラグをコンセントから抜いておこなうようにしてください。

・本機では、POWER スイッチを「OFF」にしてもわずかな電流が流れているため、2W (50Hz) の電力が消費されております。

従って使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜くか、またはアンプ側のコンセントを使用されている場合は、「SWITCHED」側につないでアンプの電源と一緒に切ってください。

## TT-START/STOP スイッチ

このボタンを押しますとターンテーブルが回転を始め、正規の回転数が得られて安定しますと、QUARTZ LOCK インジケータースイッチが点灯します。

ターンテーブルの回転をとめる場合には、このボタンを更にもう一度押してください。QUARTZ LOCK インジケータースイッチが消えると同時に、ブレーキがかかってターンテーブルが約半回転以内でとまります。

## REJECT スイッチ

レコード演奏途中で中止する場合は、このボタンを押しますと約半回転以内でターンテーブルがとまり、トーンアームが持ちあがって自動的にレスト台までとまります。

## ANTI-SKATING ツマミ

求心力によってトーンアームが内側に引っぱられようとする力を打消し、針先のすべりやレコードの内周溝に加わる力を防止します。丸針は●印、楕円針やシタ針の場合には●印の目盛に、使用するカートリッジの針圧と同じ数字に合わせてください。

## Q DAMPING ツマミ

普通のトーンアームの低域共振点は、約5 Hz~10Hz 近辺にあります。その共振点のピークが高すぎると、外部から受ける振動や音圧により、トーンアームがその周波数で特別に大きく振動してしまったり、レコードのそりや偏芯の影響も容易に受けてしまい、音溝に対して忠実にトレースできなくなってしまう。

そこでトーンアームの水平方向、垂直方向の動きを制動し、共振点のピークをさげる働きをするのがこのつまみです。従って Q DAMPING が働きますと、

1. トレース能力 および 音質の向上
2. ハウリングに強くなる。
3. S/N および ワウ・フラッターの向上

などの効果がありますので、針圧と同じ数値になるようにこのつまみで調整してください。

## TRACKING FORCE ツマミ

使用するカートリッジの針圧に合わせてこのつまみを回しますと、電気的に所定の針圧が加わります。

## UP/DOWN スイッチ

トーンアームをレコード面に降下させたいときには、このボタンを押してください。UP/DOWN インジケータースイッチが点灯します。逆に持ちあげるときは、更にもう一度押してください。インジケータースイッチが点灯します。

## UP/DOWN インジケータースイッチ

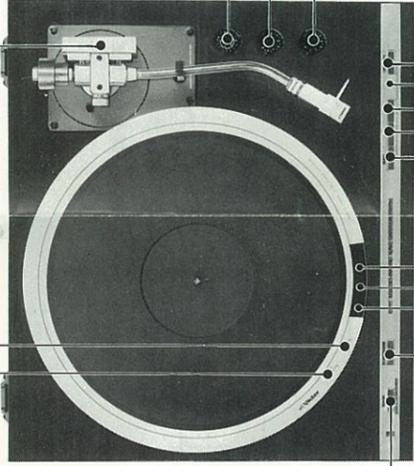
このインジケータースイッチはトーンアームがあがっているときに点灯し、さがると消えますが、REJECT または オートリターンのときには点灯しません。

## トーンアーム送り スイッチ

トーンアームを手で移動させることは無論できますが、そのほかに下記のボタンを押すことによってトーンアームを任意の位置まで移動させることができますので、ダストカバーを閉じた状態でプレヤーの操作ができる新しい機構です。

＜：このボタンを押している間はトーンアームが左へ移動しますが、手を離しますととまります。

＞：このボタンを押している間はトーンアームが右へ移動しますが、手を離しますととまります。



スピード インジケータースイッチ (45)

QUARTZ LOCK インジケータースイッチ

スピード インジケータースイッチ (33)

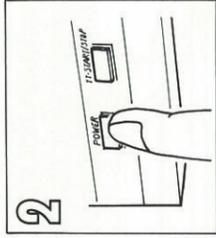
# レコードを聞くには

(説明のないツマミに関しては、「主要部分の名称および働き」

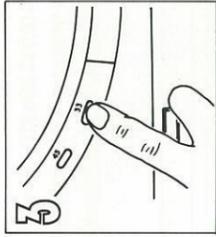
## ■ プレーヤー部の操作



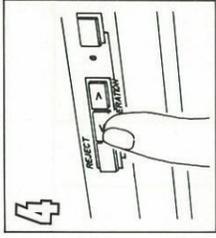
1 レコードをターンテーブルにのせ、レスト台のクランプをはずします。



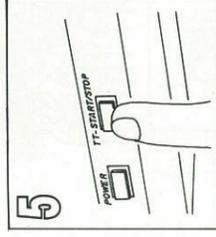
2 POWER スイッチのボタンを押(■)します。  
(注)・レコード演奏中に POWER スイッチを「OFF」にしないください。  
「OFF」にしますと針圧が0(ゼロ)となるため、レコード演奏ができなくなります。



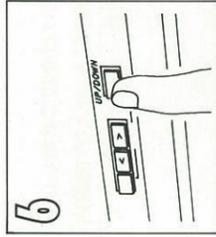
3 レコードの回転数に合わせ、ターンテーブルの速度を切り替えます。  
45回転レコード:  
「45」のボタンを押します。  
33 $\frac{1}{3}$ 回転レコード:  
「33」のボタンを押します。



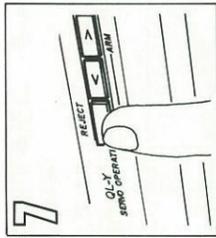
4 トーンアーム送りスイッチの「>」ボタンを押し続け、希望する位置までターンアームが左へ移動したときに手を離します。  
なお、ターンアームを微小に動かす必要があったときには、ターンアーム送りスイッチを軽くトントンと叩くように押してください。



5 ターンテーブルの時、スタート/ストップ スイッチのボタンを押します。  
ターンテーブルが正規の回転数になりますと、QUARTZ LOCK インジケーターが点灯します。



6 UP/DOWN スイッチのボタンを押します。トーンアームが静かにレコード面に降下し、レコード演奏が始まります。



7 レコード演奏が終了と自動的にターンアームはレスト台までもどされませんが、レコード演奏を途中で中止する場合には、REJECT スイッチのボタンを押すか、UP/DOWN スイッチのボタンを更にもう一度押してターンアームを持ちあげてください。



8 トーンアームがレスト台にもどされたあと、クランプしてトーンアームを固定し、POWER スイッチのボタンをもう一度押し、レコードをセットの電気を切ってください。

## ■ アンプ部の操作

1. POWER スイッチを「ON」にします。
  2. SOURCE スイッチを「PHONO」にします。(アンプによっては「SELECT」となっているものもあります)
  3. アンプ側に SPEAKERS スイッチがあれば、スピーカーのつながらる位置に切り替えます。
  4. TAPE MONITOR スイッチを「OFF」にします。
  5. レコード演奏を始めます。音量は VOLUME ツマミで適当に調整してください。
  6. 音質調整 ツマミでお好みの音質となるように調整します。
- (注)・レコードに針先をのせたまま、電源を切らないでください。

## ■ レコードを上手に聞くコツ

- ・レコードにとつて一番の大敵は、ホコリです。針先のホコリは針先洗浄液(市販品)で、またレコードはレコードクリーナー(布に湿気を帯びさせて使うのが良い)で溝のホコリをきれいにふきとります。
- ・針圧が軽すぎると「音とび」を起こしたり、音が歪んだりします。レコードは常に適正針圧でお聞きください。
- ・プレーヤーがスピーカーとくつつきあっていたり、振動の伝わりやすい所に置いてしまうと、ハウリング(一種の発振現象で「ワーン」という大きな音)を起す恐れがあります。



ホコリは大敵



針圧調整不良



ジャケットの中に



くつつけない

の項 5、6 ページをご参照ください)

## ■ レコードを録音する場合

- テープデッキを別にご用意ください。
1. テープデッキ および アンプの POWER スイッチを「ON」にします。
  2. 「アンプ部の操作」の項(7ページ)をご参照のうえ、レコードがかけられる状態にしておきます。
  3. 「プレーヤー部の操作」の項(7、8ページ)をご参照のうえ、録音したいレコードをかけてください。
  4. 3ヘッド テープデッキでモニター(録音されていく様子を聞きながら)録音する場合には TAPE MONITOR スイッチをモニターの状態にしますが、それ以外の場合は「OFF」にしておいてください。
  5. テープデッキ側を録音状態にします。録音レベル(録音されるとき音の大きさ)の調整は、アンプ側の VOLUME ツマミではできませんので、テープデッキ側でおこなってください。
- なお、詳細については、テープデッキ側の「取扱説明書」をご参照ください。

## ■ トーンアーム静止調整

トーンアーム送り スイッチ または UP/DOWN スイッチでトーンアームが上つているときにトーンアームが静止せず、ごくわずかに右 または 左へ流れることがあります。これはトーンアームが高感度設計になっているためで、温度変化などに影響されることがあるからです。そのときは「アーム静止調整 ツマミ」で調整してください。



### ・調整方法

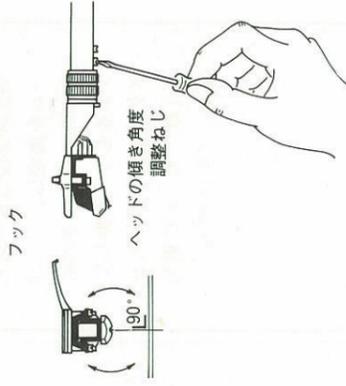
カートリッジに針カバーを付けてターンテーブルをはずし、POWER スイッチを「ON」にします。次に UP/DOWN スイッチを「UP」にしてトーンアームをレコード演奏範囲内において静止するようにツマミを回して調整してください。

# 保証とアフターサービス

次に示す調整は、カートリッジやヘッドシエ  
ルを取り付けたり、交換したときのみにおこ  
なうようにして、普段はいじらないでくださ  
い。

## ヘッドシエル取り付け角度微調整

針先がレコード面と直角にならない場合  
には、ヘッドシエル固定ねじをゆるめて  
再調整してください。  
この場合の直角度(90°)は、目視にて十  
分です。

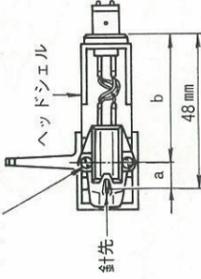


## オーバーハング調整

本機のヘッドシエルでオーバーハングを  
調整する場合、図のようにヘッドシエル  
の端から針先までの寸法が48mmとなる  
ようにセットしてください。

本機のヘッドシエル上面には、ヘッドシ  
エルの端からカートリッジの取り付けね  
じまでの寸法 (b) がmm単位で表示され  
ております。  
カートリッジの取り付けねじから針先ま  
での寸法を (a) mm としますと、この寸  
法は一定しておりませんので、48mmか  
らその寸法を差し引いたものをヘッドシ  
エルの目盛に合わせれば、ものさしを使  
わなくてもオーバーハングの調整ができ  
ます。  
なお、±1mm程度の誤差は、性能上問題  
ありません。

カートリッジの取り付けねじ



保証書には、購入年月日などが必要  
この商品には、保証書を別途添付してお  
ります。  
保証書はお買いあげ販売店でお渡ししま  
すので、所定事項の記入 および 記載内  
容をご確認いただき、大切に保存してく  
ださい。

## 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間で  
す。  
保証書の記載内容により、お買いあげ販  
売店が修理いたします。  
そのほか詳細は、保証書をご覧ください。

## アフターサービスについてのお問い合わせ

ご購入・ご購入・ご購入・ご購入・ご購入  
スについてご不明の点は、お買いあげ販  
売店または別紙「ビクター サービス窓  
口案内」をご覧のうえ、もよりのサービ  
ス窓口にお申し出、ご相談ください。

## 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売  
店にご相談ください。  
修理によって機能が維持できる場合は、  
お客様の要望により有料修理いたしま  
す。

## 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期  
間は、製造打切後8年です。  
この期間は、通商産業省の指導によるも  
のです。  
なお、補修用性能部品とは、その製品の  
機能を維持するために必要な部品です。

## 修理依頼

修理を依頼される時は、お手数でもも  
う一度「故障?と思う前に」の項をよく  
ご覧になってお調べください。  
それでも具合が悪いときには、電源ブラ  
グをコンセントから抜いて、次のことを  
お知らせください。

- ・メーカー名、品名、型名
- ・おなまえ、おとこ
- ・電話番号
- ・故障状態をできるだけ詳しく

# 故障?と思う前に

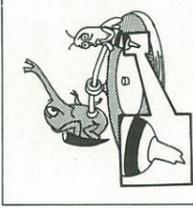


おや? 故障かな? と思ったら.....  
修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください

## 音がでない



コードがはずれてい  
ませんか。



レコード針が摩耗し  
ていませんか。

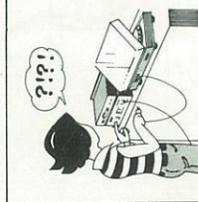
## 雑音で聞き苦しい



コードは忘れず、確実  
に。



新しいレコード針に交  
換します。



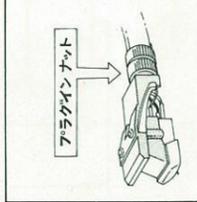
接続を間違えていま  
せんか。



針先にホコリが付い  
ていませんか。



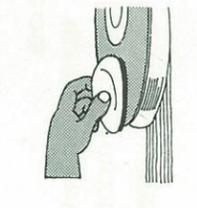
針先のホコリは、針先  
洗浄液(市販品)できれ  
いにふきとってください  
い。



プラグイン ナットが  
ゆるんでいませんか。



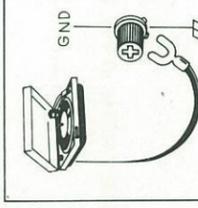
レコードが古かった  
り、ホコリが付いて  
いたりしませんか。



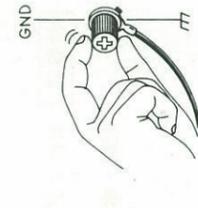
レコード クリーナーで  
レコード溝のホコリを  
きれいにふきとってくだ  
さい。



アンプ側の TAPE  
MONITOR スイッチ  
が "MONITOR" の  
状態になっていま  
せんか。



接続コードがゆるん  
でいたり、アース線  
がはずれていません  
か。



接続コードやアース線  
は、確実に接続して  
ください。